

すくすくと伸びたト―ヒは卒業生の思出ともなるであらう。

第七章 北落合小学校

第一節 東特別教授場

北落合はおよそ二回の歴史がある。第一回は明治三十六年か三十七年に初まつた木戸牧場と、大正二年にこの牧場を買受けて経営した川合牧場の時代である。

大正五年以後豆の景気の頃川合牧場は農場にきりかえられ小作人が増加し、一方また大正三、四年から七、八年まで石黒農場の開拓があつたので大正八年四月川合農場に南富良野村簡易教育所東特別教授場が設置されたのである。

これが北落合の教育の初まりであつた。郷土誌編にも書いた通り落合第八出張員区、つまり親睦部落の民沢善太郎宅のところであつた。シーソラプチ川の水の音の高いこの山間にあつた学校は川合牧場の事務所の一室だつたと言われている。

この時の職員はよく知られていないが、大正九年十一月三十日に閉鎖になつた。豆景気の去つたあととは次々に

人口が少くなつて行つたのである。

北落合六百三十番地のこの学校の校下は空知川上流シ―ソラプチ川流域及高台地をふくみ、旭川市一条八丁目川合倉吉所有の牧場地と石黒農場であつた。

現在北落合小学校にのこつている記録によると二十数年前一度小作を入れて開墾に従事したころは附近の木材の切出しで栄えたけれども木材がなくなつた時、百数十戸の小作者がごとごとく転出したと書いてあるのはこの時のことであらうと思う。

第二節 北落合尋常小学校

大正の時代は去つて北落合は荒廃したままうちすてられていたが、村瀬源太郎前南富良野村長は農場主川合倉吉（嘉十翁はなくなつていた）とはかつて自作農創設を前提として開墾し、再び農地とすることになつたので、その後の村長丹野助七の援助と川合倉吉農場主の犠牲的努力で開墾が初まつたのである。

筆者が現地調査中は話してくれる者もなかつたので郷土誌編には書かなかつたが、沿革誌によると昭和十一年四月下旬児玉佐吉團長による神川自作農既成組員二十数戸が入地し、入地式は昭和十一年六月十日落合川合農

場事務所において丹野村長以下関係者が集つて行つたことになつている。

かくて各自の荒地の開拓の鍬はうち下された。学齡児童は前住地の親類に預けてきたものもあるが、父兄と共に十名位入地したので、農場主川合倉吉の寄附による青年会館を一時使用することになり、昭和十一年十一月十七日、空知郡北落合尋常小学校の校名を認可されたのである。

訓導松村武雄が初代校長として発令されたが、校舎が未完成のため十二月十七日に着任し、即日開校式を行つた。最初の在籍者は十二名だつた。

昭和十二年日支事変が起つたとき、八月三十日松村訓導に充員召集が来、八月二十九日に出発したので、重要書類を代用教員松村スエに引継いだのであつた。

その後落合校からと幾寅校から交互に一週間づつの出張授業が実施されていたが、九月十三日中川郡仁宇布校訓導加藤正が着任したので、初めて落ちついた授業が出来る様になつたのである。

昭和十三年十二月十八日付で加藤訓導が前任校に転出したので美瑛校から栗城訓導が発令され十二月三十日に着任し、昭和十四年六月二十三日松村訓導が校長解任と

なつたので栗城訓導校長兼任となつたのである。

昭和十五年四月十七日付で栗城訓導は転任発令、同日松村訓導が校長兼任となつて再び来校したのである。

昭和十八年二月十一日単級複式教育設備助成金が交付されたので、町村援助費を加えて、設備を充実させ、三月になつて落合の学務委員田中文吾が村会に提出、六月三日黒川村長、今村助役、塚田、藤原、二村会議員が来校して視察した。校舎土台替と校長住宅増築は昭和十八年十二月二十五日完成したのである。

第三節 北落合国民学校

昭和十六年四月一日、北落合国民学校と改称したが、軍人援護に関する勅語は昭和十四年九月二十八日に、青少年学徒に賜つた勅語は同十一月一日に、教育に関する勅語は昭和十五年二月十日にそれぞれ御下賜になつている。

こうして戦時体制下に於ける国民学校の教育はこの山間の僻地にまで徹底してきたのである。

第四節 北落合小学校

昭和二十二年四月一日南富良野村立北落合小学校と改

称して六・三制小学校となつた。

北落合は標高五七四米を前後する高原でブロック住宅が点在するところはちよつと他の郷土に見られない風景であるが、昭和三十年十二月二十六日ブロック造りで教室二、職員室一、玄関等七五・五坪の新築をして移転した。

こうして学校は二度位置が變つて現在のところにおちつたが、北海道で最も標高の高いところにある学校なのである。

昭和三十一年十月三十日落合中学校北落合分校一教室と附屬廊下等四十四坪が増築された。

教員住宅二十四坪五合、工費七十八万五千円、木造平屋建二戸は昭和三十四年十月十五日竣工した。

教育は教育基本法にもとづくことは論をまたないが、開拓部落という地域の実態にもとずき強い開拓進取の精神に重きをおき、小学と中学が一校舎を使用している実状にも即して、

- 1、強い体力と意志をもつた実践力のある人間
- 2、自主創造の精神と責任感のある人間
- 3、勤労を喜び生産に科学する人間
- 4、情操の豊かさと協力的な人間

常に参考になつた。

これによると明治三十四年頃富良野にいた名取元一が空知川流域を開墾し、明治三十九年に富山県から樺戸郡浦臼村に來住した上沢、野崎、酒井、土井の四氏が明治四十年四月名取の所有地をゆずりうけて開墾したのが初まりであると書いてある。筆者の調査によると、これは五軒町のこと、上沢藤吉、能崎清太郎、酒井竹太郎、土井某(繁松の父)のことである。

入地順は必ずしも同時でなく三十八年から四十一年に及んでいるが、これは郷土誌を見てほしい。

大正四年頃鹿越の駒通浅野信太郎が原谷牧場の一部を買受けて経営したが、金山方面から來た山火事のために牧場は不成功に終つたので、焼跡に菜種を播いたところその成育はすばらしかった。

その後開墾に志したが後に王子製紙に売つたことも学校沿革誌に出ているが、これは鉱業編を見てほしい。

五軒町の開拓は古い、石山の発達は昭和二十年頃からなので東鹿越小学校は六・三制以後の小学校としての歴史しかない若い学校である。

第二節 沿革概要

5、個人の尊厳を重んじ真理と平和を希求する人間の育成を目的として授業をつづけている。

第五節 歴代校長とP・T・A

校長の歴代は次の通りである。

初代	松村武雄
二代	栗城登
三代	松村武雄
四代	妹尾和悦
五代	鈴木要
六代	本谷善吉
七代	高橋春雄 (現在)

保護者会、また保護会と称した時代の記録は資料がなく不明であるが、P・T・Aは昭和二十二年八月十六日の設立で三ヶ田源次郎、坂井与四松、坂井久男、三ヶ田源次郎、坂井定雄、三ヶ田源次郎の順に就任した。

第八章 東鹿越小学校

第一節 若い学校

学校の沿革誌は郷土誌を併せて編集されたものである。

昭和二十二年十一月一日、東鹿越小学校設置期成会を結成、藤野巳代吉が会長になつて運動を展開したので二十三年三月三十一日付で開校を認可された。

授業開始は七月五日である。

日鉄の会社会館を借用して仮校舎にあて授業を開始したが、児童数が増加したので昭和二十五年八月三十一日村議会で決定、九月三日委員会が出来、翌年七月一日落成祝賀大運動会を催した外、八月二十日落成式をした。

校地の総坪数は仮校舎坪数一三二坪、新校舎坪数一六四坪、戸外運動場坪数一八〇〇坪、実習地坪数六〇坪、その他三四三二坪となつている。

学級数の増加の具合は、昭和二十三年三月三十一日に二学級の認可をうけて開校、同年九月に三学級、昭和二十五年三月三十一日に四学級認可になり、三十年五学級三十一年六学級となつて今日に及んでいる。

校長は昭和二十三年四月三十日開校の時着任した高野善三が現在に至るまで終始一貫教育に熱情をそそいでいる。

P・T・Aは昭和二十三年六月創立されたが、会長は朝倉影正、青山清水の二人であつた。

校歌は北海道文化賞第一回受賞作家、潮音歌人小田観